（様式2）

2018年度 教育活動活性化提案事業 実施結果報告書

（　中間報告　・　<u>最終報告</u>　）

平成31年2月25日

福岡女子大学学長 殿

申 請 者　　所属名　国際教養学科
職　名　准教授
氏　名　スウェン・ホルスト　印

事 業 名 （テーマ）	香住ヶ丘欧州新聞		
事業実施者及び 事業分担者	ホルスト研究室の学生3名	大学院生及び 学外協力者等	

活動内容及び成果（必要に応じ資料、写真等を添付すること）

※この欄の記載は、大学ホームページ等にそのまま掲載する予定です。

（活動内容）

-新聞編集のために必要なソフトウェアの注文した。生協の不手際によって11月に届いた。
-チラシを関連の教員への協力を依頼した。国際推進センターにも連絡した。
-前期の演習の受講者に執筆という課題を出した。演習の中から学生が他人に伝えたら面白い情報を選んで、記事という形に変えなければならなかった。記事と論文など様々な文書体をこれからさらに明確にしなければいけないと実感できた。学生のテーマ選択に関与しなかった。
-ほかの学生の参加を募た。欧米言語文化コースに入る予定の私の授業を受けた2年生に声を掛けた。しかし後期が忙しいという理由で断られた。募集のやり方を工夫しなければならないであろう。しかしメール配信もほとんど意味がなかろう。自分の利益に直観しない場合に断われる可能性が前から想像していたので、ある程度の見返り（単位や報酬）があった方がいい。

11月-2月：
－ 執筆者を募る。教員を通してまたは直接、面識がある留学中あるいは留学から帰った学生に依頼した。学生が友達・知り合いに依頼しなかった。
－ 関連の教員への協力の依頼した。一人の教員が執筆してくださって、一人の教員が自分のヨーロッパ関連の卒論を書いている学生に卒論のまとめを依頼してくださった。他コースの教員からの反応が結局なかった。7月の案内と12月の依頼の間の時間が開きすぎ、12月のタイミングが遅すぎたかもしれなかった。
-記事を集めた。記事を提供するといった学生から、返答がなかったケースもあった。レイアウトを学生と一緒に考えた。.
-特定なソフトで 編集したので、結局一人作業になった。使用できる写真を選定した。著作権などを配慮して、著作権がない写真と著作権所有者明記で利用が自由の写真を選んだ。印刷発注した時に予算を考えて、全ページをカラーにするためにもと計画したB4サイズではなく、A4サイズにした。

成果

-彩りのヨーロッパの様々な国の話をのせた新聞ができた。
-研究室以外の執筆者を募ることができた。執筆した学生に自分が福岡女子大学の教育（演習、卒論、留学制度）をとおして発信すべき情報を持っていることを意識させることができた。編集する学生の情報発信についての意識を高めることができた。

できなかったことも多々ある。
-学生主体で事業を進めることができなかった。教員のパソコンにしか入っていない特集なソフトを使ったことは一つの理由であった。仕事を分け与えることができなかった。演習の主な授業内容の傍らで、差し支えない程度で新聞の編集を進めた。本来、演習以外の学生を巻き込んで、昼休みなどにしようと計画した。
　しかし、結局研究室以外の編集する学生を募ることができなかった。上にも触れたとおり、募集する形は難しい。
その一つの理由は関連の教員の十分な協力を得ることができなかった。（4名の中の2名が協力を得た。）

　これから大きく二つの点を変える。ひとつ、第1号ができたので、第1号をみせながら教員と学生に対してより具体的に、またより広く協力を依頼できる。二つ目には、ソフトウェアを変えることである。誰でも自分のパソコンで作成できるワードに使用とおもう。それで基礎的なレイアウトを決めて（第1号のレイアウトを踏まえて）、学生一人ずつが一ページを担当できるようにしたい。

福岡女子大学 受 19. 2. 27 付 学事企画課

事業費の交付決定額(円)

50000 円

事業費の決算額(円)(領収書等を添付すること)

41500 円

事業費の決算額の内訳(円)

費目	品名、仕様など	金額
消耗品費	ソフトウェア パーソナル編集長	17,800
印刷製本費	印刷費	23,700
旅費交通費		
通信運搬費		
備品費		
その他		
合計		41,500

※費目等は適宜追加・削除すること